

今帰仁村における月間のウニ適正漁獲 努力量（人数）について

水産業改良普及員 奥原哲夫

今帰仁村では漁獲量の制限並びに漁獲時期の制限などでウニの資源管理型漁業を実施しているが、漁獲努力量（人数）については制限していない。資源管理型漁業推進にあたっては漁業種類別に適正努力量の配分も必要である。ここでは今帰仁村の月間のシラヒゲウニ適正漁獲努力量（人数）の推定をやってみた。結果は図1、図2に示したとおりである。なお、推定にあたっては昭和60年度の今帰仁村におけるウニ水揚量と従事者数を調査して計算した。漁獲可能期間は6月、7月、8月及び9月の4ヶ月間で、1人当りの生産可能数量は身にして2kgまでである。参考までに月別の従事数と漁獲量を示すと表1のとおりである。

表1. 昭和60年度今帰仁村におけるウニ漁業従事者数と漁獲量

月	従事者数	漁獲量
6	34人	0.95トン
7	26人	1.15トン
8	25人	1.31トン
9	21人	1.01トン

なお、考察については図1、図2に数値を入れて具体的に示してあるので、それを参考にして頂きたい。

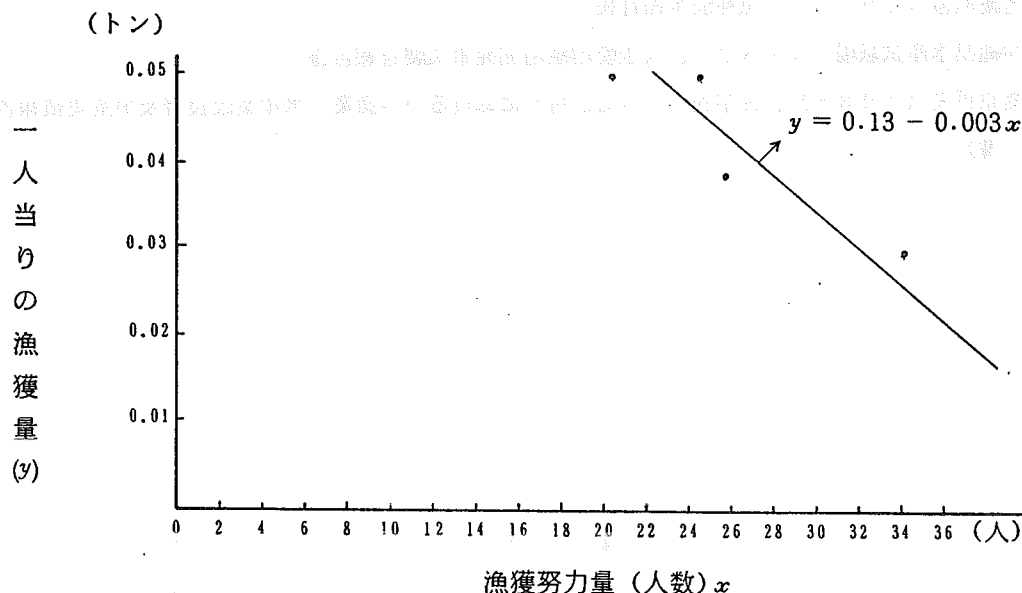


図1. 漁獲努力量（人数）と1人当りの漁獲量の関係

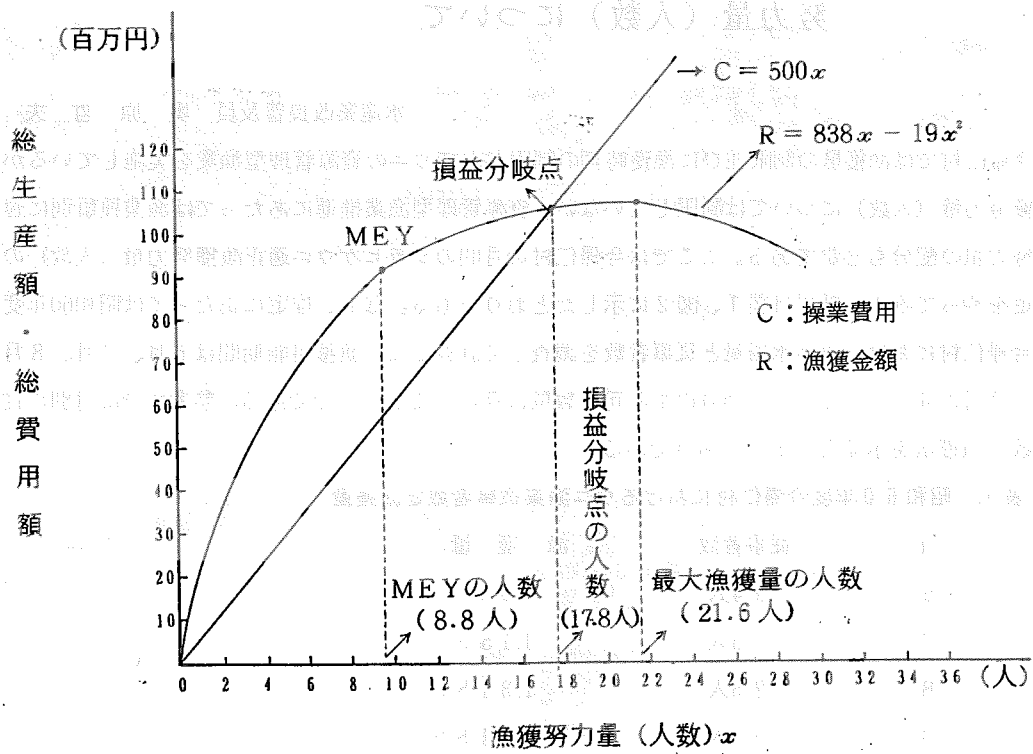


図2, 漁獲努力量(人数)と総生産額・総費用額の関係

参 考 文 献

- 名護漁協(1985)、魚種別水揚月報
- 沖縄県水産試験場(1982)、大規模増殖場開発事業調査報告書
- 奥原哲夫(1985)、古宇利島(今帰仁村)におけるウニ漁業(水産業改良普及事業実績報告書)